

# 自動化書庫システムの長期運用にむけて —国際基督教大学運用事例報告 pt.4—

## Toward long-term use of AutoLib.

### Case study pt.4 of International Christian University Library

黒澤 公人\*

#### 抄 録

図書館は時間の経過とともに、蔵書が増加し、常に増加する図書をどのように収納するか格闘してきた。自動化書庫は高密度に図書を収納することが出来るが、長期運用していくと入庫する図書が増えていく。自動化書庫への入庫が増えるに従い発生する問題や自動化書庫から大量の図書を出庫する方法について検討した。また、そのような処理を行うために自動化書庫が持つべき機能についても検討した。

#### 目 次

1. 自動化書庫の長期運用
2. 図書の増加とその対応
3. JCCと自動化書庫の共通点
  - 3.1 図書の所在管理
  - 3.2 フリーロケーションという概念
  - 3.3 図書の選定技術
  - 3.4 自動化書庫への移行
4. 自動化書庫の利用計画
  - 4.1 自動化書庫の利用の割合
  - 4.2 自動化書庫の利用方法の確立
  - 4.3 入庫資料の選定
5. 自動化書庫の長期運用による検討課題
  - 5.1 入庫率50%に達した場合
  - 5.2 入庫率70%に達した場合
  - 5.3 入庫率100%に達した場合
6. 大量出庫処理を行う場合
  - 6.1 大量出庫作業を行う場合の問題点
  - 6.2 大量出庫資料の選定
7. 自動化書庫システムに求められる機能
  - 7.1 自動化書庫のコンテナ使用状況の一覧
  - 7.2 統計機能の強化
  - 7.3 図書を連続して大量出庫指示する機能
  - 7.4 コンテナの固定入庫、フリーロケーションの設定を一括変更する機能
  - 7.5 モニタリング機能
8. メーカーの役割 コンサルティング機能
9. おわりに

#### ○ 1. 自動化書庫の長期運用 ○

図書館を建築する場合、収納可能蔵書数、座席数などを考慮して設計されます。現在、多くの図書館で自動化書庫の導入が検討されています。自動化書庫は大量の図書を高密度に収納できます。

図書館が長期運用をしていくと、図書館の蔵書は収納能力の限界に向かって、増加して行きます。当然ながら図書の増加にともなって自動化書庫の入庫冊数も増加して行きます。

国際基督教大学図書館の導入での経験から自動化書庫の入庫冊数の増加していく過程で何を検討しなければならないのか予測してみたいと思います。

#### ○ 2. 図書の増加とその対応 ○

まず、本学が創立して50年以上が経過する間、図書館がどのように変化してきたのかを見てみましょう。創立当時は数万冊だった蔵書数が、現在63万冊になっています。平均すると年1万冊以上の図書が増加するため、十数年おきに図書の収納能力を拡大する必要に迫られました。



# 東亜同文書院に魅せられたフツの司書が出来たこと Serendipity — A Librarians View of Toa-Dobun-Shoin

成瀬 さよ子\*

## 抄 録

レファレンス係に異動してから「幻の名門校・東亜同文書院」に関心を持つようになった。東亜同文書院『大旅行誌』の内容一覧を作成してWeb上に公開した。また『東亜同文書院関係目録』を出版して海外研修へ。帰国後はあちこちで報告会等を開催。現在もアメリカのライブラリアンや研究者と交流している。『目録』を頼って来館される国内・外の研究者やOB・学生等の対応にも追われている。一方愛知大学は、COE予算を獲得。昨年より東亜同文書院の遺産の公開に向けて活動を開始した。この大きなうねりに乗って、多忙ながらも楽しみながら仕事をしている。アウトソーシングや職員削減・高齢化の中で、何が出来るか・またしなければならぬか、図書館の方向性も見えてきた。

## 目 次

1. はじめに
2. 概略「東亜同文書院」
3. 東亜同文書院『大旅行誌』の内容一覧
4. 『東亜同文書院関係目録：愛知大学図書館収蔵資料を中心に』の出版
5. 海外研修
6. 魅せられた多くの人達
7. 引き継がれた愛知大学
8. 終わりに

「親父は早くに亡くなり顔も知らずに育ちましたが、これでお袋自慢の親父のことが良く分かります。ありがとうございました。」と丁寧な物腰で深々とお辞儀をされ、目にはうっすらと光るものが。さらに後日御礼のお手紙を頂戴した…こうしたことが度重なったので、これは尋常な思いではない、一体東亜同文書院はどんなところだったのか？遺族の方でもあれほど思い入れが深い理由は？…興味を持った最初だった。

### ○ 1. はじめに ○

1995年にレファレンス担当になって以来、度々遠方より来客がありまた電話や手紙などでも、東亜同文書院卒業生の書いた論文や記事の調査依頼を受けるようになった。その度に第何期生の方でしょうか？と尋ねては、該当期生の学生が書いた図書を見つけ内容を調べて班毎に書かれた日誌・紀行文を探していた。そしてご遺族の方たちに複写して資料を提供していたが、どの方も共通して私たち図書館員に対して非常に真摯な態度をとられたことに驚かされた。既に初老の男性は、

### ○ 2. 概略「東亜同文書院」 ○

#### (1) 日清貿易研究所

尾張に生まれた荒尾精は、大西郷の再来とか東洋の事情に精通すること彼の右に出る人なしと言われた程の人物である。彼は陸軍士官学校時代に根津一を知り、軍服を脱いで清国に出発した。そこで国際人岸田吟香の上海楽善堂を活動の拠点とし、日本の天命は、中国の改革を助け日本と中国の提携の実現を期すことを決意した。そのためには、強兵よりも富国が必要で、日中の貿易によっ

\*なるせ さよこ 愛知大学豊橋図書館 平成17年10月5日受理

# 災害救急マニュアル『文化財防災ウィール』 —図書館にもWheelを—

## Disaster emergency manual

### “The Japanese-language version of the Emergency Response and Salvage Wheel” to the Library

豊田裕昭\*

#### 抄 録

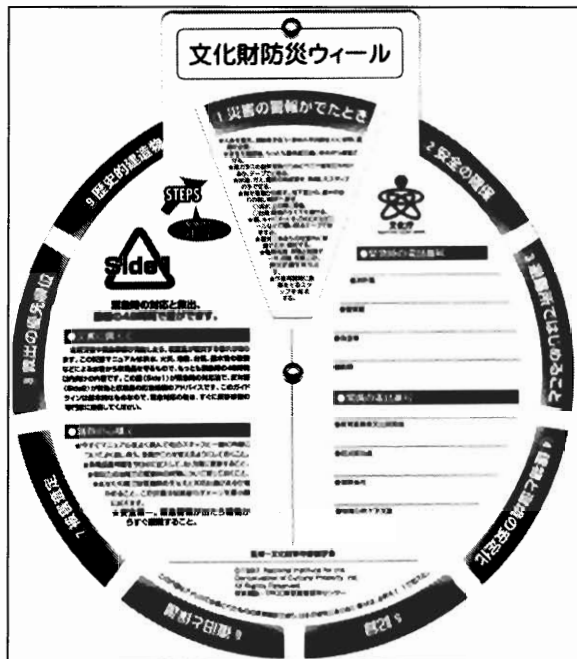
2004年7月、文化庁が「Emergency Response and Salvage Wheel」の日本語版である『文化財防災ウィール』を作製し、既に博物館や美術館に配布しました。この『文化財防災ウィール』は、形的にも円盤形というユニークなものであり、内容的にも災害時における資料に対する救急のマニュアルです。

オリジナル版は、1997年に米国で作製されたものですが、既に英語版以外にもスペイン語、中国語、オランダ語、フランス語などに翻訳されています。日本語版の作製に当たってはTRCC東京修復保存センターによる努力が大きく、<防災オレンジマニュアル>としての紹介がきっかけになります。

この『文化財防災ウィール』については、文化財のみのもものではなく、また博物館や美術館のみのマニュアルでもありません。図書館や文書館でも有効に使えるものとして紹介します。

#### 目 次

1. はじめに
  2. 『文化財防災ウィール』とは
  3. オリジナル版の作製者
  4. 『文化財防災ウィール』の形状
  5. 『文化財防災ウィール』の内容
    - 5-1. Side 1
    - 5-2. Side 2
  6. 『文化財防災ウィール』の作製経緯
    - 6-1. TRCC東京修復保存センター編
    - 6-2. 文化庁編
    - 6-3. 文化財保存修復学会編
  7. 『文化財防災ウィール』の配布
  8. マニュアル：最も基本的な対策
  9. おわりに
- 付録『文化財防災ウィール』の内容抜粋



\*とよだ ひろあき 国立国会図書館 平成17年10月1日受理

